

箱根旧街道の松並木 毛虫被害

三島・国史跡の景勝地

箱根旧街道(国史跡)の一部である三島市の松並木が、大量発生した松毛虫に葉を食い荒らされ、深刻な事態に陥っている。約360本の半分以上が被害を受け、とりわけひどい10本程度は緑の葉の部分がほとんどなくなり、枝だけの状態になっていて、枯死する可能性もあるという。

19日、松並木を歩くと、針の中央分離帯に現在計約360本の松がある。虫書や排気ガスの影響などで枯れることも多く、ここ10年ぐらいは毎年数本程度が枯れ、伐採しているという。

ただ、現在は異常事態だ。市は昨年10月ごろ、毛虫の大量発生に気づき、11月に薬剤を散布するなどした。その駆除を請け負った庭園管理者の大村徳夫さん(63)は「寒い時期でもあり、毛虫もかなり大きくなっていったので、薬が効きにくかったのか、生き残って成長した毛虫が相当い

と、箱根旧街道は江戸時代前期に整備された。三島の松並木はそのうちの約900本で、石畳の道沿いと国道1号



大量発生した松毛虫

葉がほとんどなくなった松の枝



緑の葉が松毛虫に食い荒らされ、ほとんど茶色になった松＝いずれも三島市川原ヶ谷

360本の半分以上 異常事態の声も

る」と説明する。それらが春になって動きを活発化させ、松の緑の葉を食べてしまっているという。

今年に入ってから、「松並木が茶色になって、枯れるのでは」という市民からの投書や市ホームページへの書き込みが、市に届くようになった。そこで市が調査したところ、現状では全体の5〜6割の木に程度の差はあれ被害が出ていることがわかった。

その中でも、10本程度は8、9割が被害に遭って、木全体が茶色になってしまっている。大村さんは「葉がなくなったからといって、必ず枯れるというわけではないが、養分がとれなくなるので、かなり厳しい状態ではある」と話す。

この文化財の清掃活動などをして「松並木と一里塚を守る会」の渡辺光信代表(80)は「このところ毎年のように、松の一部が虫の害で茶色になることはあるが、今年特にひどい。ここ10年では見たことがないほどだ」と今年の惨状を嘆く。また、「この状態が続けば、将来は貴重な松がなくなってしまうのでは」と危ぶむ。

文化振興課は来週初めにも松並木への薬剤散布を予定している。その効果次第では、第2弾も検討するという。同課の担当者は「地元の人にも、ハイキングなどの観光客からの風情ある景色を守るよう手を尽くしたい」と話している。(長尾大生)